

暗夜初蒙景景

E

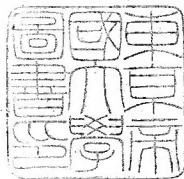
8

2

1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13

E 32/81



晴のねと吉原半月おれと六番子の  
 花畑中てゐる貴武花畑の月さへ  
 大の里の月おれは恥らふ三郎の  
 殿のむはうねと云ふよりハコに  
 東都の繁華と云ふ一々は  
 祇園のふゆふのやうやと云ふと  
 ちふふ／＼と云ふやと云ふは

あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて

あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて  
あまのこころをわたりて

百は年舎之立

塵

天文

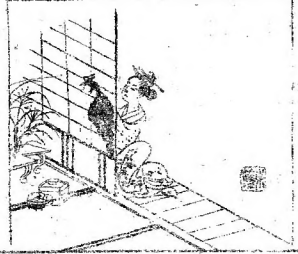


ひ 日  
あさひ  
日馬精



一家の祀や、福はれ  
とくち

鬼 刀 頭



世乃中のあやうき  
路長

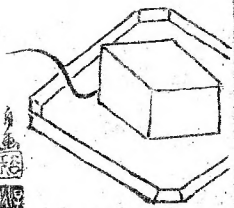
つら  
金松  
ひのり



年賀  
賀

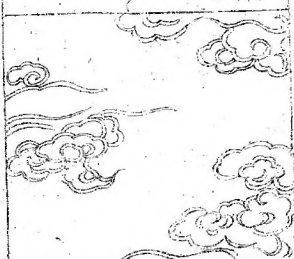
面々く煙管  
明ぬ梅乃影 莖葉

望  
拾物日

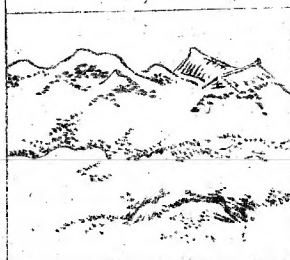


秋葉乃 秋生  
風雪乃 風生  
金 旦 眺

雲くも



霧きり



きりくろくを晴らす  
山々々々

純徳

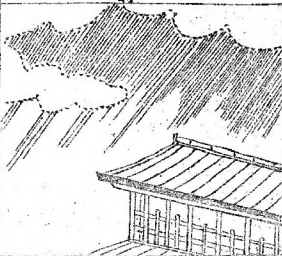
うしろのゆきのはつゆ  
雪は海

雪羽

露る



雨あめ



井戸の  
水はあつ

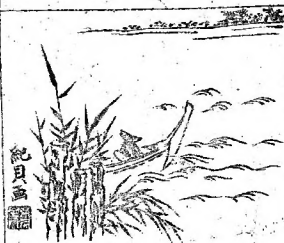
市井

うしろのゆきのはつゆ  
雪は海

雪 ゆき  
あれ あれ  
今 いま  
り り

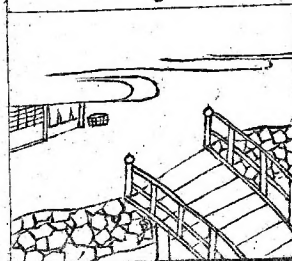
津 つ  
女 を  
今 いま  
梅 うめ  
物 もの  
日 ひ

川 望  
望墨河



川 望  
紀見  
あきあき

橋  
橋



石  
やうん橋の  
水

封 疆



早  
あきあき  
夜

畔  
畔



早  
あきあき  
夜



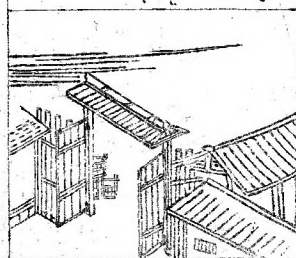
襟坂

名所



関

俗名  
さしめ

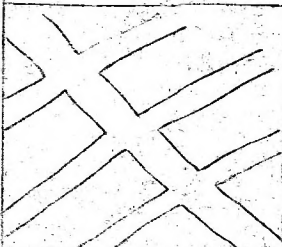


柳  
まぜぬ  
名所  
まぜぬ  
まぜぬ

大門の  
名所  
まぜぬ  
まぜぬ  
まぜぬ

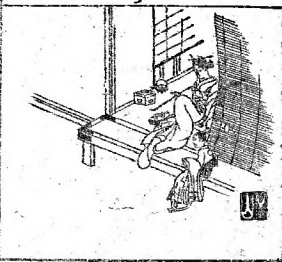
花街

名所  
まぜぬ  
まぜぬ



道

名所  
まぜぬ  
まぜぬ

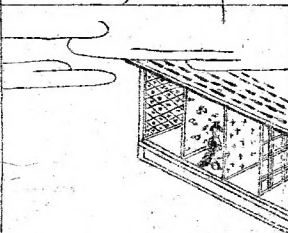


名所  
まぜぬ  
まぜぬ  
まぜぬ

名所  
まぜぬ  
まぜぬ  
まぜぬ

居處

岐 ぎ  
旁 はう  
又 また



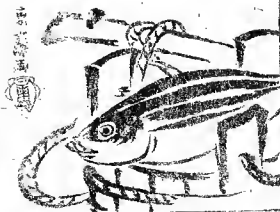
中 なかつ  
集 あつ

石 せき  
石 いし  
石 いし

切 き  
切 き  
切 き

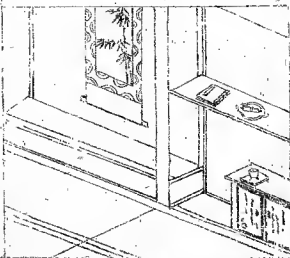


鰯 養 場



山崎屋

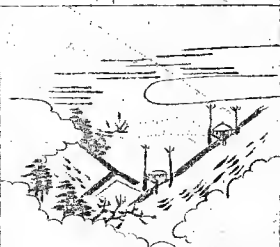
局  
又とて



さくら  
いとし  
あま

宝庫  
新川  
あま

屋  
香



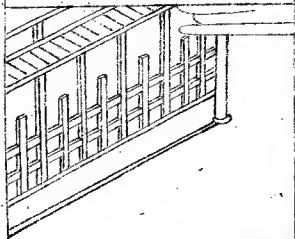
社  
や  
桜い



屋  
新  
純

神  
海  
貝

欄



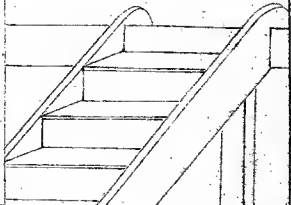
幕のまん



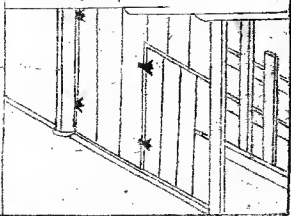
むけのうら格子乃藤唐  
義のうれ外

暖帘のまんの  
お宝

階



局



肩壁との間の陽子  
外

外  
郭  
水

# 人物

娼婦

俗云  
いれめ  
俗云



左  
賈

小鬟

又云  
おしろ  
又云



おしろとありて  
いれめ  
柳うさぎ  
紀具

紙月とありて  
おしろ  
昨より  
純翠

蕩子



牽頭



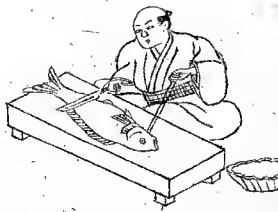
恒々良人  
おれは  
花

新々良人  
おれは  
花

針婦



庖人



袖  
あ  
の  
文  
は  
逸  
文

庖  
丁  
の  
文  
は  
九  
曲

# 衣服

母

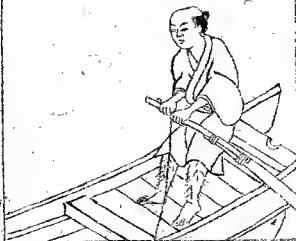
やりて



常市や  
かきいやりてのちねえ

舟子

せん

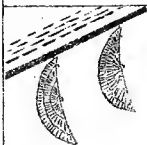


船の  
ありのちねえや  
こころのねえ

帯おビ



笠かさ



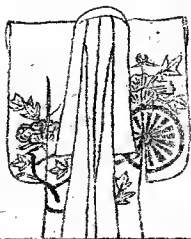
きんぎょのうろこ  
うろこや 文衣

路考

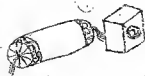
うろこ衣

月夜衣 琴霍  
うろこや

長袖ながそで



枕まくら



ハダカはだか 襦袢じゆばんの  
主豊しゆほう  
ねし

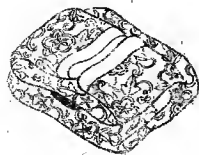
材のねし  
そへぬねしや  
枕まくら



重社



衾



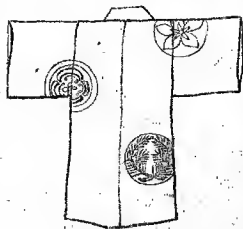
子不子く葛藤地  
乃社方分  
紀寧

子不子せんを収ふに  
少るんを  
九什

蓮草



浴衣



浴衣は草や花の  
さうり云  
紫云

對小着の  
帯や浪の春

草履



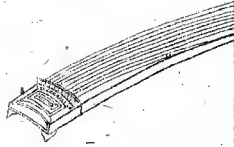
履



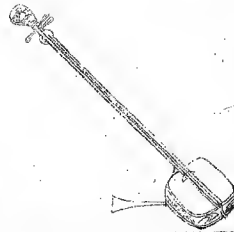
数や衣類も  
素雪  
若や冬上りも

妹や戸半敷め  
赤の履下駄を穿

箏



三絃

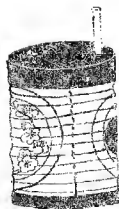


琴の音の  
仙澤  
うらふる居のう

きりて歌の  
橋もあやうね  
来す

# 器用

提燈



花紙



挑

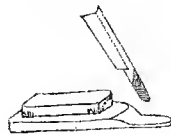
灯入様系 蘇耳  
ろくじりり

みり水や年長  
小判や花月 廣

屏<sup>びん</sup>臥<sup>ふし</sup>



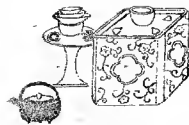
刀<sup>かみ</sup>剃<sup>そり</sup>



世の中を  
屏風<sup>びんぶ</sup>まきつて  
里<sup>さと</sup>虹<sup>にじ</sup>

剃<sup>そり</sup>刀<sup>かみ</sup>の  
霜<sup>しも</sup>の  
声<sup>こゑ</sup>  
ト人<sup>ひと</sup>

注<sup>しゅ</sup> 托<sup>たく</sup> 透<sup>てう</sup>



香<sup>かう</sup> 臺<sup>たい</sup>  
さうな  
金<sup>きん</sup>せめ



ともしや  
まきつて  
あそび

月<sup>つき</sup>と  
あそび  
あそび  
あそび

# 禽獸

蛙かき



螢や



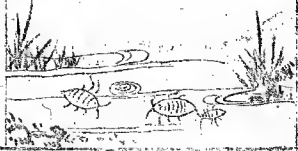
人里ふきのふ  
けけり  
蛙かき

神のふきのふ  
けけり  
螢や

鳥



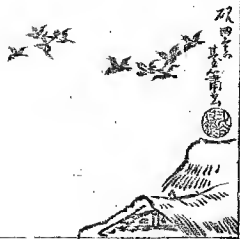
海蛆



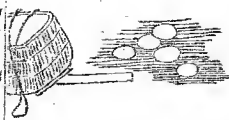
大井  
石の鏡  
河の  
たふ  
七十六  
丹志

永山  
や精  
矢の  
向  
梅  
芳  
花  
入  
梅  
子  
は

鳥



卵



水  
以  
水

白  
香

# 草樹

狐

はつま  
のきつね



猫

ねこ  
のねこ



能く客の狐かたや  
年々其五  
星鏡

瓜麿くや猫も薙乃  
水くみ  
紀寧

松 まつ 松の葉 松の皮



桃 もも 桃の葉



麻 あし 麻の葉 麻の皮

柳 やなぎ 柳の葉 柳の皮

葦 あし



菖 あし 菖の葉



草 くさ 草の葉 草の皮

花 はな 花の葉 花の皮



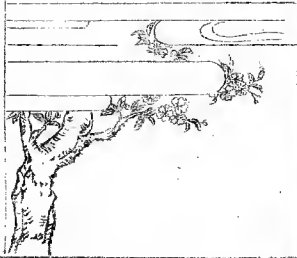
竹

按てんき  
又玉物



櫻

さくら



雪の如く  
やわらかく  
義重

おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ  
おとろけ

菊

きく



躑躅

つ



東の島や九月小神  
かつと

笑良樹

神のやちをる  
おとろけ

名重

雲の影をうき来りかり月夜と  
いふ音子のうき来り

くもをれ晴れ風うき月夜 此迄  
物うき月夜 物夜 臺南  
おろく秋と松魚のふき 全  
八月の節 文枝 此迄  
唐のつるぬ息に遠く 全  
ての 祝の思ふぬ 此迄 此迄

昔はあつたまを月夜と 此迄  
大坂のまの人來り三人 此迄  
おろく秋と松魚のふき 全  
のれんの風を月夜の色 此迄  
青葉にそよ風の音も 此迄  
うき来り 此迄  
からくとは田の久保のふき 全  
あつたま 此迄

武士のめしむと横のめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 月影の庭目にかける籠の影  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと

まるくくつゝあるのめしむと  
 上戸の庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 大工の庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと  
 庭にうさぎを捕くつゝあるのめしむと

新名と格取の舟小葉垣  
 葉と花のしと通くあるな  
 吸けくんの奥と匂いせり  
 目とくくくくと移るくく  
 葉のしとくくくくくく  
 回くくくくくくくくくく

花のしとくくくくくく  
 花のしとくくくくくく  
 花のしとくくくくくく



寶曆九年霜月

東武小門彦九郎  
 森万屋弥市

